



河盛隆造
順天堂大学



司会 金丸良文
金丸内科クリニック



多和田真人
塩山市民病院



小石佐和子
山梨厚生病院



中里 稔
中里内科クリニック DM

病態を考慮した薬剤選択とは ～DPP-4 阻害薬発売3年を経過して～

病態を考慮した薬剤選択とは ～DPP-4 阻害薬発売3年を経過して～

報告され、それがlegacy effect (遺産効果)と表現されるようになり、重要性が高まりました。加えてACCORD, ADVANCE, VADTでは、厳格な血糖管理をしても患者の予後改善に繋がらなかったという反省がありました。そこで低血糖、肥満を起しにくいグリニド薬、ビグアナイド薬、 α -GIを併用し、良好なコントロールを目指すように心がけました。2009年にDPP-4阻害薬が登場して、現在、DPP-4阻害薬の処方率は70%を超え、ビグアナ

イド薬との併用が最も多くなりました。食事療法単独は減少傾向にあります。それは、いたずらに生活習慣の改善にこだわるのではなく、早期からこれらの薬剤を導入することで、良好なコントロールが得られはじめたからではないかと思えます。また、トログリタゾンの副作用が出たときに、一時、チアゾリジン系薬が使えなくなりましたが、DPP-4阻害薬を中心に据えてから、チアゾリジン系薬との併用が非常に有効な患者もいることがわかり、現在は

チアゾリジン系薬の処方量が増加しています。そして、逆にインスリン療法の導入が少し減少しています。このことから、患者の生活に合った薬物治療ができるようになってきた印象があります。生活習慣の改善も重要ですが、仕事が忙しく食事・運動療法に専念できないような患者も多くいるなかでも、DPP-4阻害薬を導入することで比較的良好な血糖コントロールが得られやすくなったからだと思います。

金丸内科クリニックにおける糖尿病治療薬の変遷

金丸 まずは開業して15年経つ当院の状況についてご紹介します。開業以来患者数が増加し、現在、毎月通院する人が1100人で、2～3ヵ月に1回通院する人も含めると1300人くらいです。

処方割合の変化ですが、1998年に開業した前後に、UKPDSのデータが発表されメトホルミンが見直されました。開業時、ビグアナイド薬の処方量は少なかったのですが、このデータの発表後は

ビグアナイド薬を中心に、できるだけSU薬に頼りすぎない治療を行うことに努め、ビグアナイド薬や α -グルコシダーゼ阻害薬(α -GI)の処方量が増えました(図1)。

SU薬に頼らない薬物療法を目指すなかで、グリニド薬が1999年に出了。その後、UKPDS80で早期からの血糖管理によるベネフィットが試験終了後も持続し、心筋梗塞などのリスクを軽減できると

金丸 次にHbA1cの変遷について紹介します。SU薬とインスリン処方割合の比較的多かった開業当初に比べ、ビグアナイド薬中心のSU薬に頼らない薬物療法を目指した時期には、SU薬をあまり減らすと血糖コントロール不良の患者が増えました。その後、グリニド薬を使用しても不良、不可の患者がなかなか減りませんでした。

インスリン抵抗性がわずかでもインスリン分泌障害が目立つ日本人の糖尿病にとっては、SU薬も含めたインスリン分泌を促すような薬剤が必要なのかと感じ、グリニド薬の限界を感じていました。DPP-4阻害薬が登場し、優・良の割合が増え、不良・不可の患者が減ってきました(図2)。

まだ不十分ですが、約7割の患者がHbA1c (NGSP) 7%未満にコントロー

ルされているのが現状です。DPP-4阻害薬が登場してから、生活習慣の改善はもちろん、それだけにこだわらずに初期から使える薬剤とうまく組み合わせ

せると、比較的良好なコントロールが得られやすくなってきている印象を受けました。

金丸内科クリニックにおけるHbA1cの変遷

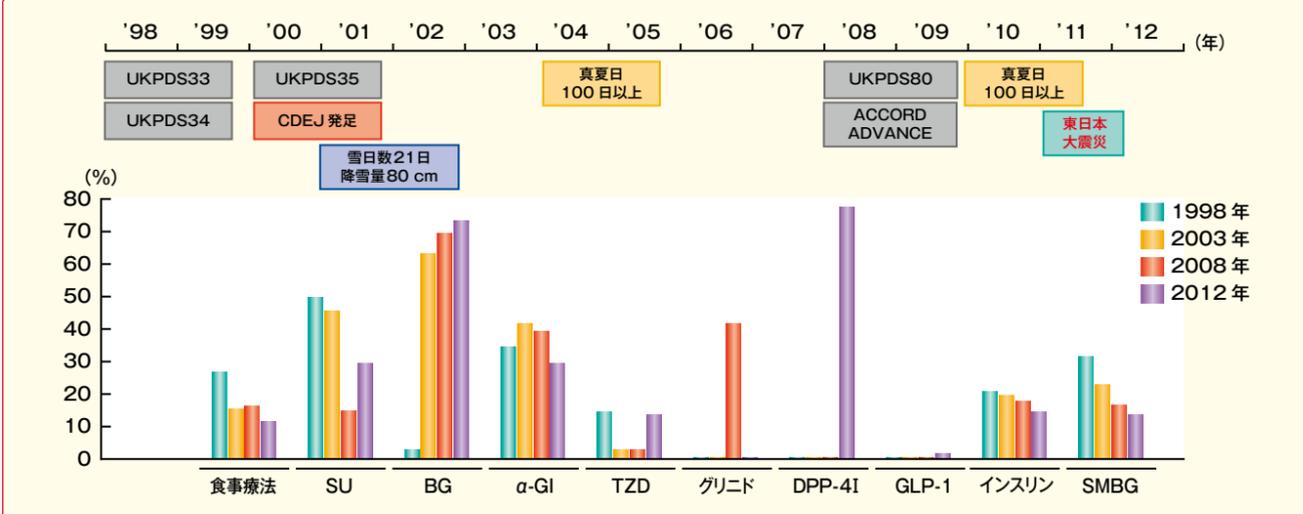
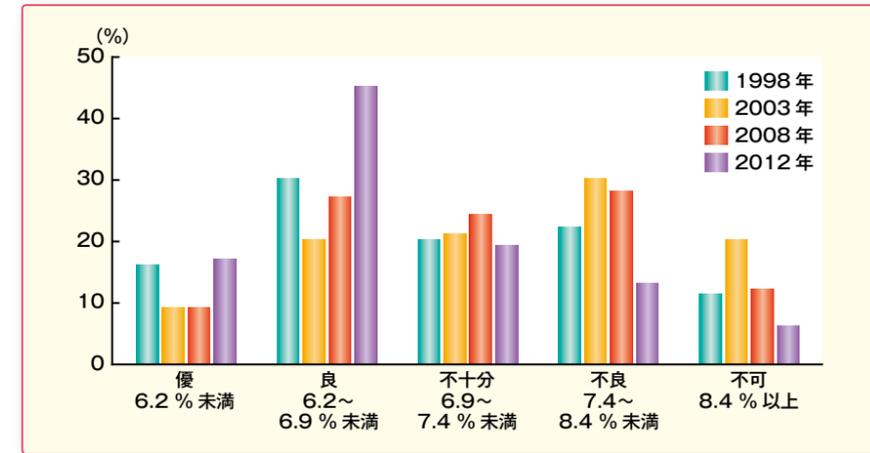


図1 金丸内科クリニックにおける糖尿病治療薬の処方割合(各年12月時点)
各年12月時点での当院における糖尿病治療薬の処方割合を薬効群別にまとめた。

塩山市民病院における糖尿病治療薬の変遷

多和田 私の病院では、最初のDPP-4阻害薬が2010年6月に、2番目のDPP-4阻害薬が2011年5月に採用されました。2010年のDPP-4阻害薬の処方割合はわずかでしたが、2012年では20%まで使用率が増えてきております。ビグアナイド薬とピオグリタゾンが錠数ベースで1.2倍くらいに増えた一方、SU薬が少し

ずつ減ってきています。グリニド薬は大体横ばいで、 α -GIが相対的に減ってきています。

薬剤の処方変遷が血糖改善に反映されているかを、私が診療している患者の約半数の200人を無作為に抽出し検討しました。対象患者は高齢者が多く、最近ではインスリン導入が減ってきており、約

